

カナダ研究の潮流(2)—歴史学

個別テーマに高まる関心

デビッド・スミス

前回は、カナダの政治研究の動向をご紹介した。今号ではカナダ史の最近の展開を眺めてみたい。両分野の区別は、ご承知のように時としてきわめてむつかしいのはもちろんだが。

東西で活発な地方史学会

政治研究でもそうであるが、歴史学でも地域研究の分野に非常に面白い本が出ている。今からちょうど10年前にカナダ西部史の研究者たちがカルガリー（アルバータ州）に集まり、第1回研究学会を開いた。この会議は以後、定期的に開かれて現在に至っているが、その中から何点かの興味ある本がまとめられた。その第1冊目がDavid P. Gagan編 *Prairie Perspectives* (Toronto: Holt, Rinehart and Winston, 1970)で、これはカナダ西部史をさまざまな面から検討したものである。最近の会議では、たとえば「カナダ西部と第1次世界大戦」といった個別テーマの研究が進んでいる。

レジャイナ大学（サスカチュワン州）にCanadian Plains Research Centreが開設されたのも、1970年代のはじめだった。この研究所はこれまでに数10冊の本を出版している。対象は歴史学に限らず、カナダ西部における文化人類学や社会学に及んでいるが、その中で最良の1冊にあげられるのが、同センターで最初に出したRichard Allen編 *A Region of the Mind* (Regina, Saskatchewan, 1970)。同センターは平原地方の歴史研究を主内容とする雑誌 *Prairie Forum* も発行している。

目を東に転じて、大西洋岸地方の研究状況を見てみよう。ここでも地域史研究が盛んで、定期的に研究学会がもたれている。地域史研究の主な発表機関は *Acadiensis* という雑誌で、この雑誌には単なる地方的枠を超えたより広い問題につながる論文が載ることが多い。大西洋岸地方史の比較的新しい本の中で特に興味あるものに Ernest Forbes 著 *The Maritime Rights Movement, 1919-27: A Study in Canadian Regionalism* (Montreal: McGill-Queen's, 1979) がある。著者のフォーブズは大西洋岸地方の不平不満の経済的原因をたどっているのだが、そこにはカナダ西部にも共通する指摘が多い。

労働運動史や都市問題の個別研究も

社会史の分野も、地方史と並んで最近注目を浴びつつある分野だ。その中でもとりわけよく取り上げられるのが労働問題と都市問題の歴史的研究である。この種の研究書では、次の2

冊が面白い。Bryan D. Palmer 著 *A Culture in Conflict: Skilled Workers and Industrial Capitalism in Hamilton, Ontario, 1860-1914* (Montreal: McGill-Queen's, 1979)、および Gregory S. Kealey 著 *Toronto Industrial Workers Respond to Industrial Capitalism, 1867-1892* (Toronto: University of Toronto Press, 1980)。そのほか、個々の都市を扱った労作がシリーズで出はじめた。いずれもイラストをふんだんに使った興味ある本だ。第1冊目は Alan Artibise 著 *Winnipeg* (Toronto: Lorimer, 1977)。雑誌 *Urban Studies Review* も都市問題をひんぱんに扱っている。

さかんな人物史研究

人物史(伝記)は、歴史研究の中で常に人気のある分野だ。とくにカナダ史が生んだ驚異的人物マッケンジー・キングについての研究が、相変わらず盛んである。私生活の面からキングを研究した C. P. Stacey 著 *A Very Double Life: The Private World of Mackenzie King* (Toronto: Macmillan, 1976)、あるいは彼の公私両面の関連を扱った Joy Esbrey 著 *Knight of the Holy Spirit: A Study of W. L. Mackenzie King* (Toronto: University of Toronto Press, 1980) などが出ている。そのほか都市レベルの政治家も最近の研究で取り上げられており、一例をあげると Tim Colton 著 *Big Daddy: Frederick G. Gardiner and the Building of Metropolitan Toronto* (Toronto: University of Toronto Press, 1980)、あるいは Brian McKenna と Susan Purcell がモントリオールの政治家ドラポーについて共同で書いた本 *Drapeau* (Toronto: Clarke, Irwin, 1980) などがある。人物史では政治家のほかに、長年にわたってカナダ国鉄の経営にあたったドナルド・ゴードンや、少し時代はさかのぼるがジョセフ・フラベルといった大実業家の研究も進んでいる。Joseph Schull 著 *The Great Scot: A Biography of Donald Gordon* (Montreal: McGill-Queen's, 1979)、Michael Bliss 著 *A Canadian Millionaire: The Life and Business Times of Sir Joseph Flavelle, bart, 1859-1939* (Toronto: Macmillan, 1978)。

以上にあげた本は、最近の研究成果のほんの1例にすぎない。選択分野も地方政治史および全国政治史に限った。研究対象も20世紀を中心とした。限られた紙面および私の関心からそうならざるをえなかったことをお許しいただきたい。
(カナダ講座担当客員教授)